

平成30年度  
藤枝市教育委員会事業評価報告書

平成30年11月  
藤枝市教育委員会

－ 目 次 －

事業評価の趣旨 .....	P 1
平成30年度事業評価 .....	P 1
藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会員名簿 ...	P 2
事業評価対象事業一覧 .....	P 3
各事業の評価報告 .....	P 4
教育委員の活動状況報告 .....	P 16

## 1 事業評価の趣旨

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、自らが実施する事務事業が効果的かつ着実に執行されているかどうかについて点検・評価を行い、P D C Aサイクルを確立することにより、事務事業のさらなる充実を図ります。

### 【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（・・・中略・・・）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 平成30年度事業評価

市が平成29年度の主要事業として位置付けた6事業と、市議会から提言をいただいた5事業の計11の事業について、教育環境の充実を総合的に推進することを目的に、各方面の有識者からなる「藤枝市子ども未来応援会議」に「教育委員会事業評価部会」を設け、必要性、有効性等の観点から事業評価を実施しました。

### 事業評価部会

実施日：平成30年8月22日（水）

場 所：藤枝市役所特別会議室

藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会

	氏名	所属団体等
部会長	松永 由弥子	静岡産業大学 教授
委員	鈴木 和裕	県立藤枝特別支援学校長
委員	清水 和義	清水園芸代表
委員	杉山 知紗	PTA連絡協議会
委員	浅原 睦	藤枝市校長会

## 平成 29 年度主要事業・市議会提言事業

No.	事業名	担当課
1	小中一貫教育推進事業	教育政策課
2	学校 ICT 環境整備事業	〃
3	ふじえだロボットアカデミー事業	〃
4	小学校トイレ洋式化の推進	〃
5	小中学校接続英語教育プラン事業	〃
6	学校・家庭・地域・産業界の連携による キャリア教育の実施	〃
7	ふじえだ教師塾	〃
8	地産地消の推進と食物アレルギー対応	学校給食課
9	カーボン・マネジメント強化事業	生涯学習課
10	学校サポーターズクラブの推進	〃
11	読書っ子育成事業	図書課

## 各事業の評価報告

事業名	小中一貫教育推進事業	所管課名	教育政策課	事業No.	1
事業の概要及び目的	藤枝市小中一貫教育推進計画に基づき、瀬戸谷地区で先行して小中一貫教育を開始し、取組実践とその効果を検証するとともに、他地区においても地区協議会の立ち上げを推進し、各中学校区における地域の特性を踏まえた小中一貫教育の導入拡大を図った。併せて、小中学校の学習指導のつながりを明確にし、9年間の学びの質を高めるために、藤枝市小中一貫教育カリキュラムを作成した。				
事業費	H29 決算	6,956 千円	財源内訳	〔市費〕	6,956 千円
事業内容	<p>&lt;瀬戸谷地区での小中一貫教育先行実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回（木曜日）小学校5、6年生及び教員の中学校での授業や、中学校教員が小学校に出向き乗り入れ授業（小6理科、小3,4外国語活動、小3,5,6音楽、小5,6保健体育）を実施するなど、中学校の環境に慣れていける環境づくりを進めた。また、小学校時代の担任が中学校での授業にサポートに入り中学1年生の頑張りを下支えするなど、瀬戸谷地区小中一貫教育推進計画に基づき小中一貫教育を先行実施し着実な展開を図った。</li> </ul> <p>&lt;他地区での取組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議を重ねてきた大洲地区で2月に地区協議会を立ち上げ、協議会を2回開催するとともに、コミュニティ・スクール化も同時進行で推進した。また、西益津地区では、地区協議会の立上げを見越し、校区で学校評議員会を一元化したほか、広幡地区においても、協議会設立に向けた協議を進めた。</li> </ul> <p>&lt;小中一貫教育カリキュラムの作成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育を推進する1つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技能の確実な習得を目指すと共に、全教員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう、道徳を含む10教科及び特別支援教育から成る藤枝市小中一貫教育カリキュラムを作成し全教員に配布した。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>瀬戸谷地区の小中一貫教育では、子どもたちはより深い指導内容を体験することで、学習意欲や理解度の高まりが感じられるようになった。また、教職員は児童・生徒の発達段階への理解が深まるとともに、小中学校の教職員間で指導に対する一体感や意識改革が大いに進み、指導力の向上が見られるなど、改めて小中一貫教育の有効性を確認することができた。</li> <li>これまでは小中学校それぞれが単独のカリキュラムのため、学びの連続性に欠ける傾向にあったが、小中一貫教育カリキュラムは、9年間を基礎期、充実期、発達期で構成し、小学校、中学校という単位ではなく、9年間で何を子どもたちに学んでもらうかが具体的に示されており、遡ってつまづきの原因を探って学び直しをするなど、9年間の学びを見通した質の高い指導を行うことが可能となった。</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長が早く、必ずしも6・3制の義務教育はそぐわない面があり、それらに対応するため9年間で子どもを育てるという小中一貫教育を進めていくことは必要である。</li> <li>地域で子どもを育てる理念からも、地域と連携した小中一貫教育の推進は必要である。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校5、6年生が中学校で授業を受けることで、中学校の垣根が低くなり、中1ギャップの解消にも有効である。</li> <li>子どもだけでなく、乗り入れ授業の実施やカリキュラムの活用を図ることで、教師の指導観の見直しや9年間で子ども育てるといった意識改革が進み、指導力の向上も見られ有効である。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤枝市小中一貫教育推進計画により事業が推進されており、公平である。</li> <li>導入時期に時間的な差があるため、不公平感が出ないように推進を図る必要がある。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育の市民への周知と意識醸成を図るとともに、各中学校区において地域のコンセンサスを得ながら、推進協議会を順次立ち上げ推進を図る。あわせて、コミュニティ・スクール化の推進も加速していく。</li> </ul>
--------	--

事業名	学校 ICT 環境整備事業	所管課名	教育政策課	事業No.	2
事業の概要及び目的	次期学習指導要領の改訂で「プログラミング教育の必須化」や「デジタル教科書の導入」が示唆されており、ICT教育を積極的に導入し、10年後、20年後の社会を生き抜く力の育成に向けて、藤枝中学校区と瀬戸谷中学校区等（中学校2校・小学校5校）をモデル地区としてICT環境を先行して整備した。また、全小中学校で教職員等が使用する校務用パソコンやその周辺機器を整備した。				
事業費	H29 決算	50,107 千円	財源内訳	[市費]	40,107 千円
				[国県補助金]	10,000 千円
事業内容	<p>&lt;学校 ICT 環境整備&gt;  (モデル校7校) 小学校：藤枝小・藤枝中央小・稲葉小・藤岡小・瀬戸谷小  中学校：藤枝中・瀬戸谷中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット型PC 238台 概ね36台／1校（1学級最大人数+教員分）小学校5年生以上（含特別支援学級）</li> <li>・電子黒板 51台 小学校5年生以上1学級1台（含特別支援学級）及び理科室</li> <li>・書画カメラ 51台 小学校5年生以上1学級1台（含特別支援学級）及び理科室</li> <li>・関連ソフトウェア一式（学習支援ソフト・特別支援学級用学習ソフト・画像編集ソフト等）</li> <li>・テレビ会議システム一式（小中一貫教育モデル実施のため。瀬戸谷小・中のみ）</li> </ul> <p>(全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書（教科：算数・数学、理科）センターサーバ方式により全校で使用可能</li> <li>・無線アクセスポイント（小学校5年生以上の各教室・理科室・特別支援学級に各1台）</li> </ul> <p>&lt;校務用PC更新&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師用PC（脱着式PC）644台 教師1人1台、職員室では有線で校務用、教室では無線で教育用として使用可能</li> <li>・教師用ノートPC 26台（ALT等使用分）</li> <li>・事務職員用ノートPC 98台（事務職員用）</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を整備したことにより、今まで行うことが出来なかった、ICTを活用しての「見せる授業」「共に考え参加する授業」が可能となった。</li> <li>・児童・生徒も今までに無いICTを活用した授業で「自己肯定感の高まり」により、積極的に授業に取り組み、普段発表が苦手な子どもも、自発的な発表を行うなど効果が見られる。</li> <li>・教職員においても、タブレット端末を積極的に教室へ持ち込み、新たな授業の取り組みを行っている。また、パソコンのスペックも向上し、デジタル教材の活用、共有により、教員の業務多忙化解消にも寄与している。</li> </ul>				

<b>事業評価部会による評価</b>	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学習指導要領でICT活用が謳われており、それに対応するためICTの整備は必要である。</li> <li>・情報化社会とともにICT化が進んでおり、学校においても子どもたちがいつでもICT機器を活用できる環境を整備することは必要である。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや教員から「授業がわかりやすい。」「楽しくなった。」「授業の準備時間が短縮できた。」などの成果があり、ICT環境の整備は有効である。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、全小中学校、全学年に配備されたので整備としては公平である。</li> <li>・ICT機器の苦手な教員もおり、ICT機器の扱いに長けた教員の有無で子どもの学びの深さが変わってしまうのは公平性に欠けるため、引き続き研修や支援員の派遣が必要。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校での実践や成果が本年度導入した学校にも活かせるよう、情報の提供や共有を図っていく。</li> </ul>
--------	--



事業名	ふじえだロボットアカデミー事業	所管課名	教育政策課	事業No.	3
事業の概要及び目的	学校では体験できないロボットづくり等を通して、子どもたちの科学技術への興味関心を高めるとともに、創造力や問題解決力を養う目的で、大学との連携のもとで講座等を開催した。				
事業費	H29 決算	2,109 千円	財源内訳	[市費]	2,109 千円
事業内容	<p>&lt;ロボコン対策集中講座&gt; (中学校1～3年生を対象) 全12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：6/9、6/23、6/30、7/7、7/21、7/28、9/29、10/6、10/20、10/27、11/10、11/17</li> <li>・受講者：28人 (うち女子4人)</li> <li>・協力：静岡大学教育学部</li> <li>・内容：「全国中学生創造ものづくり教育フェア静岡県予選大会 (11/18)」への出場を目標に精度の高いロボット製作を行い、16チームが参加し決勝トーナメントに9チームが進出。活用部門準優勝の青島中学校チームと技術賞の西益津中学校チームが三重県で開催された東海北陸大会に出場した。</li> </ul> <p>&lt;エネルギー利用技術作品コンテスト対策講座&gt; (小学校4～中学校3年生対象) 全4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：6/24、7/1、7/22、8/5</li> <li>・受講者：41人 (うち女子4人)</li> <li>・協力：静岡大学教育学部</li> <li>・内容：太陽光、磁力、振動等の自然エネルギーを利用した技術作品づくりを行い、「技術教育創造の世界「エネルギー利用」技術作品コンテスト」への出品参加を支援し、5名が出品し3名が優秀な成績を収め、静岡大学で行われた表彰式で学会から表彰された。</li> </ul> <p>&lt;ペッパープログラミング講座&gt; (小学校4～中学校3年生を対象) 全5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：9/30、10/14、10/21、11/11、11/25</li> <li>・受講者：40人</li> <li>・協力：静岡産業大学情報学部</li> <li>・内容：ソフトバンク株主催の全国ペッパープログラミングコンテストへの出場を目指し、「〇〇に役立つペッパー」という題材でプログラム制作に鋭意励んだ。11/26に開催した自治体代表を選考する藤枝大会には講座参加者から小学校の部 11チーム、中学校の部に4チーム、加えて、大洲中学校からも5チーム参加し、優秀な成績を収めた3チームが2/11に開催されたソフトバンク主催の全国大会に市代表として参加した。</li> </ul>				
成果	ロボットづくりやプログラミングを通して、より高精度な動作を求め、試行錯誤を繰り返す粘り強く考える習慣が身に付き、論理的な思考の育ちや協働的に学ぶ姿が見られ、創造力や問題解決能力の涵養が図られた。また、子どもたちに理科や科学への興味・関心を持たせるきっかけづくりや支援ができたとともに、自分の将来を考えるキャリア教育にもつながることができた。				

事業評価部会による評価	
必要性	・物づくりを通して試行錯誤を繰り返しながら、論理的な思考力や創造力、問題解決力を養うことができる事業であり必要である。
有効性	・学校でのペッパーを活用した学習で、プログラミングに興味関心をもった子どもに対し、論理的思考力をさらに伸ばす機会として大変有効であり、個を伸ばさせる事業である。
公平性	・講座を受講した子どもにのみ費用が使われる。チラシの配布や校内にポスターを掲示など、周知については評価するが、公平性の点からはもっと広く全体の底上げという視点が必要である。

今後の方向性	・物づくりを通して理科学に興味のある子どもを増やすとともに、創造力や問題解決力などを養うのに有効なため、今後も事業を継続実施する。実施に当たっては、産官学の連携のもと、学習機会の更なる深化・拡大を図っていく。
--------	--

事業名	小学校トイレ洋式化の推進		所管課名	教育政策課	事業No.	4
事業の概要及び目的	児童・生徒の学校生活の環境改善を図るため、和式から洋式便器への学校トイレの更新を推進した。特に小学校1年生用のトイレを最優先して計画的に洋式化を進め、子どもに親しまれる衛生的なトイレ環境づくりを図った。					
事業費	H29 決算	50,307	財源内訳	[市費]	1,290	千円
		(工事費:49,248) 千円		[国県補助金]	16,517	千円
		(設計費:1,059)		[起債]	32,500	千円
事業内容	<p>&lt;設計業務委託&gt;  概要：次年度実施予定3校のトイレ洋式化等改修工事設計業務  工期：平成29年6月29日～10月20日</p> <p>&lt;改修工事&gt;  実施校：6校（藤枝中央小、青島東小、葉梨西北小、広幡小、高洲南小、岡部小）の1年生用トイレ  概要：6校の便器更新  （和式34基、洋式16基→洋式45基に更新、内2基は多目的トイレ）  床の乾式化、トイレブース、小便器ほか衛生器具の更新、その他内装改修を実施  工期：平成29年5月31日～9月29日</p>					
成果	利便性の向上とともに、従来の「暗い・汚い・臭い」といったイメージが払拭され、明るく清潔なトイレ環境に改善された。児童にも大変好評であり、大切に使うようになった。					

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や保育園・幼稚園等でも洋式トイレが設置されており、必要である。</li> <li>ユニバーサルな環境づくりという点からも整備は必要である。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいトイレは快適で、1年生以外の学年の子どもも使用しており、保護者としても安心して学校に通わせることができ、有効である。</li> <li>トイレを我慢する子どもが減り、健康面で良い効果があるとともに、公共のトイレをいつまでもきれいに使おうという情操面での意識の向上が図られ、体と心の健康に大変有効である。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校2年生以上のトイレや中学校のトイレの洋式化を進め、公平性を保つべきである。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度3校の改修を実施し、小学校1年生用トイレについては、洋式化が完了した。</li> <li>トイレの洋式化について子どもの健康や衛生面において改修が必要であるため、小学校のトイレから、各フロアに1か所、洋式化されたトイレを整備していく。</li> </ul>
--------	---

事業名	小中学校接続英語教育プラン事業	所管課名	教育政策課	事業No.	5
事業の概要及び目的	<p>瀬戸谷地区小中一貫教育の実施にあたり、JETプログラムによる外国人指導助手（ALT）を1名増員し、合計13名のALTと1名のFCA（Fujieda City Adviser）で、市内小中学校で、週1時間ALTとの授業を実施した。</p> <p>中学校区で小学校6年生と中学校1年生の接続を円滑にするよう同一のALTを配置する等の工夫を図った。</p>				
事業費	H29 決算	32,049 千円	財源内訳	〔市費〕	32,049 千円
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全ての中学校区で、小学校6年生と中学校1年生の接続を円滑にするよう、同じALTを配置し、すべての小中学校で週1時間ALTとの授業を実施した。</li> <li>瀬戸谷地区に専属のALTを配置し、小学校3年から中学校3年まで同一のALTによる英語教育を実施した。</li> </ul> <p>さらに、瀬戸谷地区における実践を参考にしながら小中一貫のカリキュラムを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の全小学校を対象に、外国語活動研修を実施しており、本市の英語教育の方向性を周知するとともに教員の指導力の向上を図った。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTを1名増員したことにより、瀬戸谷地区に専属のALTを配置できた。これにより、小学校3、4年の外国語活動の先行実施が可能となった。</li> <li>市教委が学校巡回で外国語活動研修を行うことで、本市の英語教育の方向性を小学校教員に周知できた。</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期学習指導要領実施に向け、生の英語に触れたり外国語活動の楽しさを味わったりする学習としてALTの存在は欠かせない。子どもだけでなく教職員にとっても必要性は高い。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語への苦手意識が払拭され、ALTとの授業を楽しみにしている子どもが多いことから、大変有効な事業といえる。</li> <li>本市が進める小中学校を接続した英語教育は、中学英語への壁が低くなり、保護者としても安心できる。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTを全学校に配置しており、子どもたちは等しく事業の効果を受けられている。</li> <li>公平性を確保するためには、ALTの資質や指導力が求められる。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も現在の小中接続体制を維持しながら、平成32年度からの小学校3、4年の外国語活動（週1時間）と小学校5、6年の英語（週2時間）の全面実施に向けて、ALTを計画的に増員していく。</li> <li>引き続き外国語活動研修を行い、教員の英語指導力の向上を図るとともに、本市の外国語教育の方向性を市全体で共有していく。</li> </ul>
--------	--

事業名	学校・家庭・地域・産業界の連携による キャリア教育の実施	所管課名	教育政策課	事業No.	6
事業の概要 及び目的	小学校においては身近な職業調べや講師を招いての「夢講座」等を行い、将来の夢を持たせたり、勤労観の形成をすることで、社会的な自立に向けての基盤づくりを行った。 中学校においては地域の協力を得て、職場体験学習を実施したり、職業人を招いての職業講話などを実施することで、より現実的な生き方を考えさせ、進路選択に向けての素養を育成した。				
事業費	H29 決算	— 千円	財源内訳		— 千円
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「マイジョブ講座」(男女共同参画課) 小学校 16 校が実施</li> <li>・「夢の教室 (夢セン)」(サッカーのまち推進課) 小学校 16 校が実施</li> <li>・「職場体験学習」 中学校 8 校が実施 (残り 2 校は総合的学習の時間でキャリア講話等を実施)</li> <li>・身近な職業調べ 小学校 6 年生・中学校 1 年生で実施</li> <li>・高校 1 日体験入学、高校調べ 中学校 10 校が実施</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において年間計画を立て、計画的に実施している。</li> <li>・生き方を考える機会を設けることにより、自分の将来について夢や希望をもつ児童・生徒が増加している。</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	・子どもたちが夢を持ち、目標に向かって努力することの大切さを実感させることは、子どもたちの将来のため必要なことである。また自己肯定感の育成・伸長という面でも必要な事業である。
有効性	・子どもたちの職業観や勤労観を育てるという面においては非常に有効な取組であり、子どもたちの夢の広がりには効果がある。
公平性	・各学校においてキャリア教育の年間計画を立て、計画的に実施されており、どの子どもも公平に学習の機会が与えられている。

今後の方向性	・今後も子どもたちの夢や希望、職業観や勤労観を育むために、地域の企業や人材との連携をさらに進めていく。
--------	---

事業名	ふじえだ教師塾	所管課名	教育政策課	事業No.	7
事業の概要及び目的	<p>教職を志す人に対して、人を育てるという職業のすばらしさと大切さを伝え、教職に就くことの誇りと気概を育てた。</p> <p>また、現職の若手や中堅の教員に対しては、藤枝市がめざす教育理念や授業づくりについて理解を深め、授業力や学級経営力を高めた。</p>				
事業費	H29 決算	3,580 千円	財源内訳	[市費]	3,580 千円
事業内容	<p>&lt;講義内容の更なる充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に応じた講義内容の追加、現職教員の講師招聘、現職校長等の面接指導増加、グループワーク形態での意見交換の場の設定など、講義内容の充実を図った。</li> </ul> <p>&lt;実践的な学びのできる環境設定（大学生・院生）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を訪問しての授業参観、研究発表会への参加等を講座内容に組み込むことで、より実践的な学びにつなげた。</li> </ul> <p>&lt;若手教員への学校訪問指導と相談業務の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時講師・若手教員を対象とした年2、3回の訪問指導を実施した。（授業づくりや生徒指導への指導助言、学級経営上の悩みや課題についての相談、支援）</li> </ul> <p>&lt;面接練習の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次試験及び2次試験の面接練習を実施した。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生・臨時講師等、採用試験を受験する塾生に対し教職専門演習8回、授業づくり講座1回、生き方講座1回、授業の魅力講座1回、面接指導等を実施した。その結果、受講生の合格率は45.6%（68名受験のうち、合格者31名）であり、県合格率28.1%を大きく上回った。</li> <li>・臨時講師や若手教員の授業力、学級経営力などの力量向上と、塾生のサポートを学校全体で取り組んだことにより、学校の研修全体の活性化が図られた。また、そのことにより、教員全体の授業改善への意識が高まり、新学習指導要領の求める「主体的、対話的で深い学び」のある授業への質的転換を図る気運が向上した。</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	・「笑顔あふれる教育」「授業で人を育てる」といった本市の教育の理念を、教員を目指す受講生に伝えていくことは、将来の藤枝の教育のために大きな意味があり必要性が十分にあるといえる。
有効性	・ふじえだ教師塾は、教師としての資質、指導力の向上を図るだけでなく、人としての生き方や考え方についても学ぶ機会ともなっており、大変有効な事業であるといえる。
公平性	・原則的に藤枝市で教員をしたいという大学生や講師等が対象となっている。また、2、3年目の教員や初めて藤枝市の学校で勤務する教員全員も受講の対象となっているため、市の事業として公平性は確保されている。

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成及び若手育成に実績をあげていることから、今後も本事業を継続していく。</li> <li>・より実践的な学びができるように、個に応じた指導を増やしていく。</li> <li>・引き続き質の高い教員養成を目指すため、県教委からの補助等に関する要望を行っていく。</li> </ul>
--------	---

事業名	地産地消の推進と食物アレルギー対応	所管課名	学校給食課	事業No.	8
事業の概要及び目的	市内で生産された食材の使用拡大を通して、子どもたちの生産者に対する感謝の心を養い、地域に対する理解や愛着に結び付けることができるような食育を実施した。 また、食物アレルギーを持つ子どもたちも給食時間を楽しく過ごせるように、安全性を最優先に給食を提供した。				
事業費	H29 決算	244 千円	財源内訳	〔市費〕	244 千円
事業内容	<p>&lt;地産地消の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内産食材の優先的な使用や、市内生産者からの直接購入を促進し、前年度のアスパラ、じゃがいも、トウモロコシに加えて、さらにイチゴ、さつまいもの生産者からも購入することができた。</li> <li>・6月の「ふるさと学校給食週間」では、地元産食材を多く使用した給食を提供した。</li> <li>・市内産のじゃがいもが収穫される6月に新メニュー「藤枝パープルカレー」を提供した。</li> <li>・親子料理教室を、8月2、3日に実施し116名の親子が参加した。</li> </ul> <p>料理教室の前に食材生産者による地産地消ミニ講座を開催し、野菜栽培にかける思いを伝え、子どもたちに感謝の気持ちを芽生えさせるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の「和食の日」には、さつまいも汁にカツオだしを使用し、具材に市内産の椎茸とさつまいもを使用し、子どもたちに和食を意識づけた。</li> </ul> <p>&lt;食物アレルギー対応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立作成検討会において、アレルギー物質抜き食材を優先的に選定した。</li> <li>・給食献立表やホームページに、アレルギー品目を掲載し、保護者に情報提供を行った。</li> <li>・アレルギーを持つ親の会「給食食べさせ隊」との会合を2回開催し情報交換を行った。</li> </ul>				
成果	<p>&lt;地産地消の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5軒の生産者から直接購入することができ、県内産使用率も37.4%まで上げることができた。</li> <li>・児童・生徒に対して地産地消の意識を高めることができた。</li> <li>・親子料理教室において、生産者から話をいただき、食に対する感謝の気持ちや健やかに成長していくための食育につなげることができた。</li> <li>・学校給食において、伝統的な食文化を推進することができた。</li> </ul> <p>&lt;食物アレルギー対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー物質抜き食材の提供により、皆と同じ給食を食べられることが多くなった。</li> <li>・アレルギー物質やデザートの情報提供により、保護者の代替え食の負担が軽減された。</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消により、地域の身近な食材を通して郷土食や行事食など地域の食文化を見直すきっかけになり、食に対する感謝の心を育むうえでも必要である。</li> <li>・食物アレルギーへの対応は、誰もが安全安心に楽しく食事をするうえで、必要不可欠である。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の推進は、自分たちの地域の特産品に目を向け身近に感じることで、郷土愛の醸成にもつながり、有効な事業だといえる。また『給食だより』で、保護者に啓発している意義も大きい。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を通じた事業であるため公平である。</li> </ul>

今後の方向性	<p>&lt;地産地消の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き県内産食材の優先的な使用や、市内生産者からの直接購入を促進し、県内産使用率（目標：平成32年度末40%）を上げ、安全安心な給食の提供に努めていく。</li> </ul> <p>&lt;食物アレルギー対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー物質抜き食材の優先的選定と、保護者との情報交換を実施していく。</li> <li>・給食センターのあり方を検討する中で、アレルギー対策も推進していく。</li> </ul>
--------	--

事業名	カーボン・マネジメント強化事業	所管課名	生涯学習課	事業No.	9
事業の概要及び目的	環境補助金「地方公共団体カーボン・マネジメント強化事業」を活用して、公共施設の二酸化炭素排出削減と公共サービスの向上に繋げるために、生涯学習センターの照明器具及び空調設備の改修並びにエネルギーマネジメントシステム（EMS）を導入する。当該年度は、次年度に施工する改修工事に備え実施計画を策定した。				
事業費	H29 決算	3,456 千円	財源内訳	[市費]	267 千円
				[諸収入]	1,589 千円
				[起債]	1,600 千円
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センター空調設備改修工事実施設計 施設内の空調（ホール、会議室館内の空調機器）を平成30年度に工事を実施するための設計業務</li> <li>生涯学習センター省エネ機器（照明器具）導入工事実施設計 施設内の照明器具（メタルハライドランプ、蛍光灯、誘導灯）をLEDランプに交換する工事を平成30年度に実施するための実施設計</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センター空調設備改修工事実施設計（平成30年度施工） ホール用空調1基、会議室用パッケージエアコン18台・室外機7台</li> <li>生涯学習センター省エネ機器（照明器具）導入工事実施設計（平成30年度施工） 館内照明器具 645台のLED照明への更新 EMS（消費エネルギー計測・監視装置）の設置</li> </ul>				

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化の進行を防ぐために省エネルギーに取り組むことは必要なことであり、今後ますます重要性が増してくる。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明へと更新していくことは、省エネだけでなく使いやすさからも有効である。</li> <li>補助金を活用することで市の負担を抑えながら施設の使い勝手も良くなり有効な事業といえる。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギーという観点から施設の設備を積極的に更新し、EMSを導入することで、利用者に節電等の負担依頼をすることなく、等しく施設利用することができる。</li> <li>省エネルギーへの取組として、公平性から他の公共施設にも設備更新が望まれる。</li> </ul>

今後の方向性	<p>カーボン・マネジメント強化事業については、平成28年度から平成30年度までの3か年事業であり今年度をもって省エネ機器の導入は完了する。</p> <p>今後は、省エネ機器と同時に導入したエネルギーマネジメントシステムを活用し、省エネ及び二酸化炭素排出削減に向けた施設運営を図っていく。</p>
--------	--

事業名	学校サポーターズクラブの推進		所管課名	生涯学習課	事業No.	10
事業の概要及び目的	地域にボランティア活動のコーディネーターを配置し、地域の教育力を学校教育へ活用することで、地域と学校が一体となり、子どもを育む環境をつくり、地域の教育力向上を図るとともに、教員の子どもに対するきめ細やかな指導時間を確保することを目的に実施した。					
事業費	H29 決算	1,673 千円	財源内訳	[市費]	597 千円	
				[国県補助金]	1,076 千円	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校区（10 中学校区）にコーディネーターを配置 16 名配置</li> <li>・市内の小中学校で学校の要望に応じた支援 小学校 17 校、中学校 6 校で年間 650 回実施 支援内容 ①学習支援②学校行事支援③環境整備 等</li> <li>・コーディネーター研修会 2 回開催（6 月、9 月）</li> </ul>					
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のうち 1 回は小中学校担当教員との情報交換会としたことで、情報の共有化が図られ、他校の取組み事例を参考として、取組みが実施された。</li> <li>・学校では指導できない内容を、地域が支援することで地域と学校の連携した良い関係づくりに繋がり、小中一貫教育やコミュニティ・スクール化への土台づくりになった。</li> </ul>					

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール化へ向けて「社会に開かれた教育課程」や「地域の教育力の向上と連携」を強固なものにしていくうえで、学校と地域が連携して取り組む必要性は高い。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で教員が指導できないことへの支援等により、子どもたちの学習を支え、子どもたちの学びの充実を図ることは、学習環境の向上に有効である。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにサポーターズクラブを活用するか、活かしてない学校もある。</li> <li>・本事業の理解を深め、すべての学校でサポーターを活用できるように学校に啓発を実施してことが公平である。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校が連携できていることから、今後も継続して実施していく。</li> <li>・各中学校区で委嘱している推進員の確保を図っていく。</li> <li>・全校で実施されるように、学校側に継続して啓発を実施していく。</li> </ul>
--------	--



事業名	読書っ子育成事業	所管課名	図書課	事業No.	11
事業の概要及び目的	<p>心や身体の成長に大切な時期であると同時に、本への興味・関心が芽生える幼児期に、美しい絵本や楽しい物語に触れて読書に興味を持つ機会を提供することを目的として、市内の幼稚園・保育園へ市立図書館の所蔵する図書を貸し出すミニ図書コーナーを設置した。</p> <p>新しい図書の購入と定期的な入れ替えに加え、巡回時の読み聞かせや、新刊、イベントの紹介をすることで、子どもやその親を含めた人たちの本への興味・関心を高め、読書習慣を身に付けた読書っ子を育成した。</p>				
事業費	H29 決算	998 千円	財源内訳	〔市費〕	998 千円
事業内容	<p>&lt;巡回訪問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・22施設を対象として、月1回、各施設を巡回訪問し、100冊の本を貸し出してミニ図書コーナーを設置した。</li> <li>・巡回時には、施設の要望により、図書館職員による読み聞かせや図書館でのイベント、本の紹介などを行った。</li> </ul> <p>実績：訪問回数 延べ257回 貸出冊数 延べ25,700冊</p> <p>&lt;巡回用資料の整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸し出し用図書の計画的な維持・更新を図った。</li> </ul> <p>実績：購入冊数 636点</p>				
成果	<p>「読み聞かせの黄金期」と言われる幼児期に、良質な本やおはなしに出会う機会を提供することにより、子どもたちに読書の習慣づけと、本を通じて豊かな表現力や想像力を身に着けるきっかけ作りを行うことができた。</p>				

事業評価部会による評価	
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用者を増やすとともに、子どもが本好きになるきっかけとなる事業であり、活字離れが進む中、必要な事業である。</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの良質な絵本や物語との出会いを創出する機会として有効であるとともに、本を通じて今後の健やかな成長を促すきっかけを作るという点にも期待できる事業である。</li> </ul>
公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どもを図書館に連れて行くのは大変なことなので、巡回訪問を行う機会を増やし、なるべく大勢の子どもが気軽に本を手にとることができるよう、さらなる工夫を望む。</li> <li>・多くの幼稚園・保育園がこの事業を活用するように働きかけ、巡回訪問などを実施し、公平性を高めてほしい。</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回訪問を行う幼稚園・保育園の拡大を図る。</li> <li>・子どもたちが質の高い読書を楽しめるよう、巡回用図書の維持・更新に努めるとともに、対象となる各園からの意見にも耳を傾け、利用者側の要望も反映させた資料構成を図っていく。</li> </ul>
--------	--

## 教育委員の活動状況報告

## 教育委員の活動状況報告

### 1 教育委員会の会議

藤枝市教育委員会では、藤枝市教育委員会会議規則（昭和 31 年教育委員会規則第 2 号）に基づき、月 1 回の定例会と、必要に応じ臨時会を開催しています。

教育委員会の所掌事務は、「当該地方公共団体が処理する教育に関する事務」（法第 21 条）と定められており、その範囲は広範であるため一部の事務は「教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則」により教育長に委任されています。したがって、定例会では教育長に委任できない事務について審議をしています。

平成 29 年度の定例会及び臨時会での審議内容等は以下のとおりです。

【定例会開催回数】	12 回	【臨時会開催回数】	3 回
【附議件数】	15 件	【事業報告件数】	77 件

#### 【附議の内容】

No.	案 件	件数
1	教育委員会規則等を制定し、又は改廃すること	1
2	議決を要する議案について市長に意見を申し出ること	0
3	附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること	6
4	職員の人事に関すること	2
5	教育に関する一般方針を定めること	6
6	文化財の指定に関すること	0
	計	15

## 2 総合教育会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき総合教育会議を開催し、市長と教育委員会が本市の教育の方向性や施策等について協議しました。

平成29年度には3回の会議を開催し、協議事項等は以下のとおりです。

		開催日	場所	協議事項等
1	第6回総合教育会議	平成29年 5月22日	301・302 会議室	・小中一貫教育について ・学校ICT環境の整備とプログラミング教育について
2	第7回総合教育会議	平成29年 10月4日	藤枝 中学校	・学校ICT環境の整備について ・ICT機器を活用した授業の参観 (国語・数学・理科・特別支援学級)
3	第8回総合教育会議	平成30年 2月16日	特別 会議室	・次年度における教育環境の整備方針について ・教員の働き方改革について

## 3 その他の教育委員の活動

教育委員は教育行政の更なる推進と円滑なる教育委員会の運営を図るため、委員会における審議とは別に静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会などへの参加や市内小中学校の訪問をはじめ市及び教育委員会各課が主催する行事等の現場視察等を実施し、本市教育委員会の活性化を図るとともに教育委員としての資質の向上や自己研鑽にも務めています。

平成29年度活動状況は、以下のとおりです。

### 【教育委員の活動内容】

分類	案 件
1 調査・研究	(1) 藤枝市校長会夏季研修会への参加 (2) 指定校の研究発表会への参加 (3) 静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会への参加
2 現場視察	(1) 市内小中学校訪問 (2) 市及び教育委員会各課が主催する各種行事へ参加

平成30年度  
藤枝市教育委員会事業評価報告書

平成30年11月  
藤枝市教育委員会